



アソシエイツ・ソーシャル・インターナショナル： 清水沢プロジェクト

北海道・夕張市清水沢地区で炭鉱遺産を活用したまちづくりを展開する「清水沢プロジェクト」の代表・佐藤真奈美さんを1970年代の北海油田発見以降石油ガス産業の街として栄えてきたスコットランド・アバディーンに招聘し、ディスカッションイベントを行います。二都市間の共通点や未来に向けたアートエクステンジ（芸術・文化による交換プロジェクト）の可能性などを探ります。

スピーカー： 佐藤真奈美（一般社団法人 清水沢プロジェクト 代表）

パネルスピーカー： メイボン・レズリー博士（ロバートゴードン大学）

企画・司会進行： メイボン尚子（インディペンデントキュレーター、ピーコック・ビジュアル・アーツ アソシエイト）

日時： 2018年11月15日（木）18時-20時 入場無料

場所： W O R M（11 Castle Street, Aberdeen AB11 5BQ Scotland）

主催： ピーコック・ヴィジュアル・アーツ「アソシエイツ・ソーシャル」プログラム

助成： ブリティッシュ・カウンシル、クリエイティブ・スコットランド

協賛： アバディーン市、ロバートゴードン大学

関連事業： ロバートゴードン大学におけるセミナー 2018年11月19日（月）14時-16時
メイボン・レズリー博士によるセミナーシリーズ「Daily Life in Northern Japan（北日本の生活）」に佐藤真奈美氏をゲストとして迎えます

概要：

この度ピーコック・ヴィジュアル・アーツでは北海道・夕張市清水沢地区で炭鉱遺産を活用したまちづくりを展開する「清水沢プロジェクト」の代表、佐藤真奈美さんを1970年代の北海油田発見以降、石油ガス産業の街として栄えてきたスコットランド・アバディーンに招聘、ディスカッションイベントを行います。パネルスピーカーとして夕張をはじめ苫小牧、室蘭、いわき、南相馬など北日本における環境ガバナンスを継続的に研究している環境社会学者、メイボン・レズリー博士を迎え、清水沢プロジェクトの活動ならびに夕張という都市をアバディーンのアバディーン・エンズに紹介、ひとつの産業に大きく寄りかかっていた、あるいは現在も寄りかかっている都市として夕張とアバディーンが持つ共通点や、歴史的な文脈、文化芸術分野が抱える課題、などについて意見を交換します。

イベントの企画・司会進行はアバディーンを拠点に活動するインディペンデント・キュレーター、メイボン尚子氏です。メイボン氏は今年の6月に清水沢プロジェクトを訪ね、佐藤氏をはじめ夕張市に住む方たちと会い意見交換を行いました（<https://www.shimizusawa.com/news/4088.html>）。

アバディーンは日本の近代化に貢献した幕末の商人トーマス・グラバーの故郷でもあることから日本とのつながりが深い場所です。しかし産業やビジネスの交換はあっても芸術・文化による明確な交換は残念ながら継続的に行われていないのが現状です。メイボン氏は将来的に日本とアバディーン間で未長いアートエクステンジ（芸術・文化による交換プロジェクト）を発展させたいと構想しています。今回佐藤氏を一週間の視察滞在に招聘することもその構想を具体的に前進させる動きの一環で、本企画を通し、二都市間の関係を深め、未来に向け夕張との間に未長いアートの交換・交流を発展させる、その可能性をアバディーンに住む方たちとともに探る狙いがあります。

本企画はブリティッシュ・カウンシルとクリエイティブ・スコットランドのパートナーシップファンドを受け、アバディーン市とロバートゴードン大学からの協賛のもと、ピーコック・ヴィジュアル・アーツの「アソシエイツ・ソーシャル」プログラムの一環として行われます。

連絡先：メイボン尚子 naocomabon@gmail.com / +44(0)7547453658 (WhatsApp) / LINE ID: nmabon



清水沢プロジェクトについて (<https://www.shimizusawa.com/>) :

夕張市清水沢地区で炭鉱遺産を活用したまちづくりを展開している。炭鉱住宅を改装した交流拠点・観光インフォメーション「清水沢コミュニティゲート」の運営、旧北炭清水沢火力発電所（清水沢アートパワープラント）や清水沢ズリ山の利活用、JR清水沢駅写真展の企画、などの活動を通し、炭鉱の記憶をはじめとする地域の資源を活用しながら地域内外の人々が出会い、「ともに歩む地域」づくりを目指している。また夕張市と連携し、「清水沢エコミュージアムプロジェクト」や「関わり人口創出事業」を推進している。当プロジェクトは2008年に代表の佐藤真奈美氏が札幌国際大学大学院観光学研究科の修士論文を執筆するために夕張市清水沢地区を研究対象地域としたところからスタート。2016年に一般社団法人化。

ピーコック・ヴィジュアル・アーツについて (<http://www.peacockvisualarts.com/>) :

約45年の歴史を誇るスコットランド北東部を代表する現代美術センター。版画工房としてスタートした当センターは現在3つのアクティビティ（Making 作ること、Learning 学ぶこと、Showing 見せること）、3つのワークショップ（Printmaking 版画、Digi デジタルテクノロジー、Curatorial キュレーション）をコンセプトとして掲げている。2017年夏にそれまでの展示スペースに代わり、プロジェクトスペース「W O R M」をオープン。ミミズを意味する「W O R M」は資本主義に直結する世の中を俯瞰し把握しようとする近代的な鳥の目線を捨て、地中から世の中を知ろうとするミミズの目線に移行しよう、という狙いが隠されており、このスペースでは美術の展覧会だけではなく、分野をまたぐディスカッション、ワークショップ、読書会など様々なイベントを行うことを目的としている。

ロバートゴードン大学について (<https://www.rgu.ac.uk/>) :

大学として正式に認証されたのは1992年の現代的な大学だが、教育の場を提供する機関として18世紀半ばに創立された。職業型学位に強く力を入れているため「The Professional University（専門性の非常に高い大学）」として高い評価を得ている。現在17,000人以上の学生が在学しており、そのうち1,000人以上が留学生である。建築学校「Scott Sutherland School of Architecture and Built Environment」と美術学校「Gray's School of Art」も同大学内に属している。

メイボン・レズリー博士について (<https://energyvalues.wordpress.com/>) :

スコットランド・アバディーン、ロバート・ゴードン大学社会学部准教授。2012年、エディンバラ大学にて博士号取得（地理学）。以降、環境問題に関する研究を始める。スコットランドにおける環境問題の公共認識・社会的受容性に関する研究を行い、2014年からは研究地域を拡大、日本における環境問題に関しても研究を行っている。専門は環境ガバナンス。夕張には2016年と2018年に2回訪問し調査研究を行なった。北海道以外では、福島県漁業における東日本大震災後のリスク・ガバナンス、町づくり政策における地球温暖化対策についての研究も行っている。

メイボン尚子について (<http://wagonart.org/>) :

福岡出身。2007年多摩美術大学大学院芸術学専攻修了。大学院在籍時より約10年間日本と英国の公・私立美術館やギャラリーでインターンおよび勤務。2011年末よりスコットランド在住。最近の仕事に「ブラジル日本移民110周年記念現代美術展：虚実皮膜 - 日本の皮膚と肉体のはざま」（2018、ブラジル・サンパウロ）、「陰翳礼讃：福田篤夫 アラン・ジョンストン 二人展」（2018、金沢・富山・群馬）、「イラナ・ハルペリン：地質学的むつまじさ（湯の花）」（2015-2017、大分・別府、スコットランド・アバディーン）、「毛利武士郎展」（2016、群馬）；「Leaves without Routes: 根も葉も無い」（2016、台湾・台北）などがある。



参考写真（以下のリンクから大きな画像をダウンロードいただけます：

<https://drive.google.com/drive/folders/147AAqfngD5vLkN18h0sN7I6AHcK2ggX7?usp=sharing>）



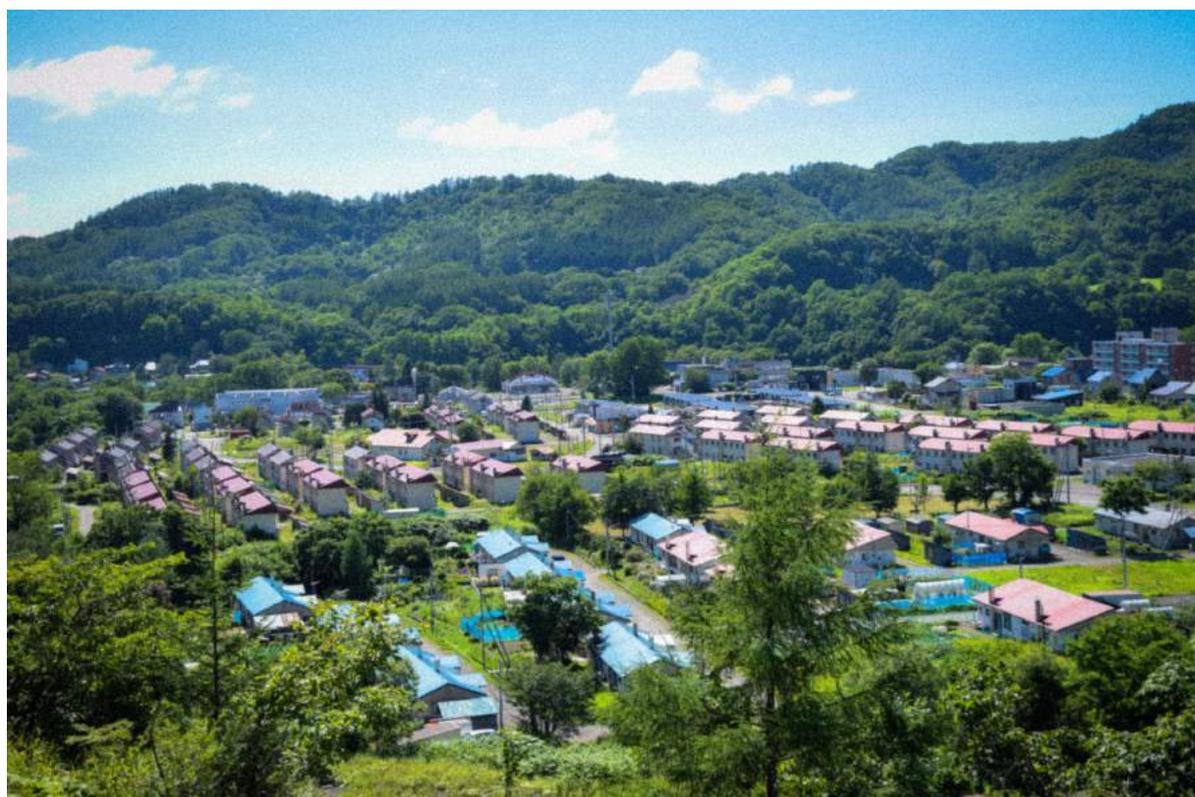
清水沢ズリ山でのイベントの様子



一般社団法人 清水沢プロジェクト代表、佐藤真奈美氏



炭鉱住宅を改装した交流拠点・観光インフォメーション「清水沢コミュニティゲート」



清水沢ズリ山から炭鉱住宅街を望む